愛着を持った相手の死の経験の重要性と
実際に獣医師が授業をする際に注意していること

（公社）東京都獣医師会　副会長
中川 清志



自己紹介



獣医師　博士（獣医学）

中川動物病院　院長

（公社）東京都獣医師会副会長

（公社）日本獣医師会

学校飼育動物委員会委員

全国学校飼育動物研究会副会長

学校担当獣医師

西東京市立保谷第二・けやき・芝久保小学校

渋谷区立幡代小学校

避難所運営協議会委員

西東京市立保谷第二小学校・柳沢中学校

臨床と学校教育の両方を知る立場から、現場で使える考え方を共有します。

本日の5つのテーマ

01　学校飼育動物の教育的意義

02　動物種と飼育環境の選び方

03　記録と健康管理

04　獣医師の語りかけ

05　教員への助言と別れの支援

OVERVIEW

本日の5つのテーマ

01　学校飼育動物の教育的意義

02　動物種と飼育環境の選び方

03　記録と健康管理

04　獣医師の語りかけ

05　教員への助言と別れの支援

人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）してみませんか？



01

学校飼育動物の教育的意義

日々の世話が愛着を育て、
命を自分ごととして考える土台になります。



なぜ学校で動物を飼うのか

家庭で動物と暮らす機会がない子どもも、
学校では継続して一つの命に関われます。

教育的意義は「見ること」ではなく、
日々の取組にあります。

“愛着を持った相手の死”
を経験させたい

飼育は、生命尊重を具体的に体験できる学習活動です。

学習指導要領における飼育活動

小学校学習指導要領は、動物を育てる活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にすることを重視してきました。

継続した飼育を、生命を実感する学習として位置付けています。

小学校学習指導要領 第2章 第5節　生活

- 第２　各学年の目標及び内容

［第１学年及び第２学年］

１　目　標

(2) 身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

２　内　容

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して，それらの育つ場所や成長の様子に関心をもって働きかけることができ，それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに，生き物への親しみをもち，大切にしようとする。

飼育活動は、生活科の目標と内容に位置付けられた学習です。

平成20年告示解説で変更された文言

平成20年の改訂では、病気や死に直面したときの悲しみや恐ろしさが、児童の成長に必要な体験とされました。

生命の尊さを実感する体験として、飼育・栽培を捉えています。

小学校学習指導要領解説 生活編

第3章 第2節 (7)

- 飼育や栽培の過程では，新しい生命の誕生や突然の死や病気など、身をもって 生命の尊さを感じる出来事に直面することもある。
- 成長することのすばらしさや尊さ，死んだり枯れたり病気になったりしたときの悲しさやつらさ，恐ろしさは， 児童の成長に必要な体験である。
- 動植物との関わり方を真剣に振り返り，その生命を守っていた自分の存在に児童自らが気付く機会と捉える事が大切である。

文言の変化には、当時の子どもと社会をめぐる問題意識が反映されています。

学習指導要領解説の文言変更の背景

少年事件や自殺をめぐる当時の社会状況は、
命を大切にする教育が重視された背景の一つです。

- 1997年　**少年による凶悪重大事件が社会問題化（平成9年）**
- 1997年　中3生徒による神戸連続児童殺傷
- 1998年　**平成期における少年による殺人の検挙人員ピーク（117人）**
- 1998年　中1生徒による教師刺殺（栃木県）
- 1999年　**学習指導要領解説 獣医師との連携　児童の成長にとって大切**
- 2000年　**平成期における少年による傷害の検挙人員ピーク（11,502人）**
- 2000年　17歳少年による西鉄バスジャック事件（佐賀県）
- 2003年　中1生徒による幼児誘拐殺害（長崎県）
- 2004年　小6年児童による同級生殺害（長崎県）
- 2008年　**学習指導要領解説　児童の成長に必要な体験**

この間に起きた少年事件

子どもの死のイメージに関する指摘

2004年の児童殺傷事件調査報告書は、加害児童が死を現実的に捉えていなかった可能性を指摘しました。

この指摘は、子どもが生と死について考える学習の必要性を社会に問いかけました。

佐世保市立小学校 児童殺傷事件調査報告書 2004年

「死のイメージ」に関する記述　長崎県教育委員会

- 現在もなお、自らの手で被害児童の命を奪ったことの重大性や家族の悲しみを実感できないでいる。
- その背景として、自己の悲しみの経験や共感性を基盤とした「死のイメージ」が希薄であり、人の死が情動を伴うものになりえていないことや、処理しかねる強い衝動には目を向けないようにして抑圧する対処が習慣化していることなどが指摘される。

長崎県教育委員会の調査

長崎県教育委員会は、小学4年・6年と中学2年の児童生徒を対象に、死の認識や経験を調査しました。

○ 調査対象　・公立小学校の第４学年及び第６学年
・公立中学校の第２学年

○ 調査方法　・対象学年の児童生徒、各１，０００人程度を抽出して実施。

[回答した児童生徒の実数]

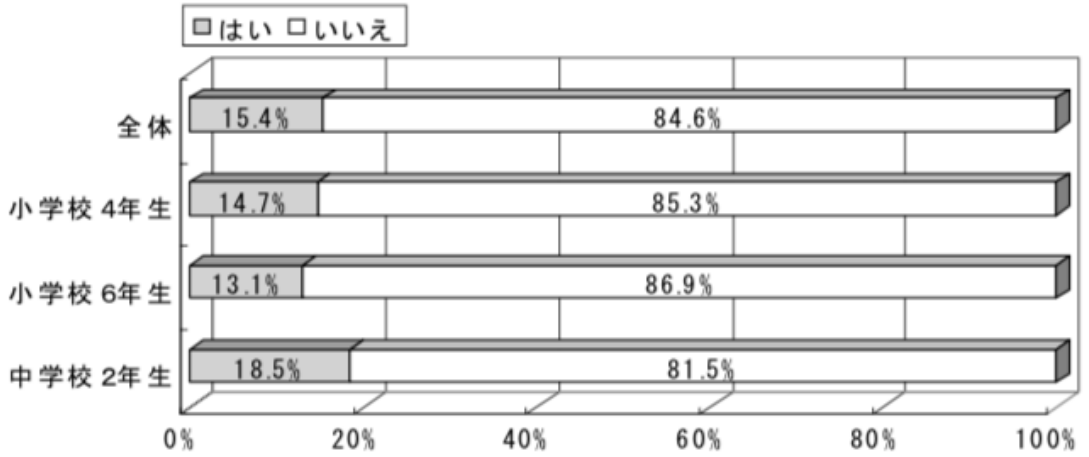
学年 ＼ 教育事務所	長崎	佐世保	島原	五島	壱岐	対馬	計
小学校４年生	684	252	110	60	40	50	1,196
小学校６年生	680	304	107	60	40	50	1,241
中学校２年生	669	252	103	60	40	50	1,174

[調査期間　平成１６年１１月～１２月]

長崎県教育委員会の調査 2005年

「死のイメージが希薄」との指摘を受けて

問
死んだ人が生き返ると思いますか。



https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/07/1374546818.pdf

調査から示された教育上の課題

生活様式や社会環境の変化により、誕生や死に直接接する機会が減っていると考察されています。

学校、家庭や地域で、生と死を語り、命の尊さを考える機会が求められました。

長崎県教育委員会の調査・調査結果の考察

（２）生の喜びや死の悲しみの経験について

人や動物の生や死の場面に直に接し、喜んだり悲しんだり、他者の気持ちに共感したりすることは、人として成長する過程において欠かせないことである。

学校教育においては、飼育や栽培などの体験活動を一層重視するとともに、家庭や地域においても、機会を捉えて、子どもたちに命の尊さを語り、「生と死」について共に考える事が求められる。

学校飼育は、飼育や栽培の体験を振り返り、生と死を共に考える機会になります。

調査から示された教育上の課題

生活様式や社会環境の変化により、誕生や死に直接接する機会が減っていると考察されています。

学校、家庭や地域で、生と死を語り、命の尊さを考える機会が求められました。

長崎県教育委員会の調査・調査結果の考察

（２）生の喜びや死の悲しみの経験について

人や動物の生や死の場面に直に接し、喜んだり悲しんだり、他者の気持ちに共感したりすることは、人として成長する過程において欠かせないことである。

学校教育においては、飼育や栽培などの体験活動を一層重視するとともに、家庭や地域においても、機会を捉えて、子どもたちに命の尊さを語り、「生と死」について共に考える事が求められる。

学校飼育は、飼育や栽培の体験を振り返り、生と死を共に考える機会になります。

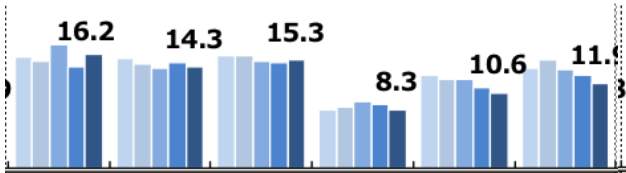
家庭飼育だけでは届かない体験

家庭で犬や猫を飼う世帯は限られています。

学校飼育には、家庭環境に左右されず、学年全体で命に関わる機会をつくる役割があります。

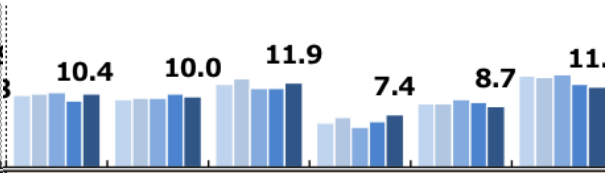


性年代×家族構成別 現在飼育状況（犬）



既婚子あり					
男性			女性		
20-30代	40-50代	60-70代	20-30代	40-50代	60-70代
(1,238)	(3,748)	(1,995)	(1,752)	(3,739)	(1,650)
15.7	15.4	15.9	8.3	13.1	14.2
15.2	14.8	16.0	8.6	12.5	15.3
17.5	14.1	15.2	9.4	12.6	13.9
14.4	15.0	15.0	9.0	11.3	13.1
16.2	14.3	15.3	8.3	10.6	11.9

性年代×家族構成別 現在飼育状況（猫）



既婚子あり					
男性			女性		
20-30代	40-50代	60-70代	20-30代	40-50代	60-70代
(1,238)	(3,748)	(1,995)	(1,752)	(3,739)	(1,650)
10.2	9.6	11.9	6.2	9.0	13.0
10.5	9.9	12.6	7.1	9.1	12.8
10.5	9.8	11.2	5.6	9.5	13.2
9.5	10.4	11.3	6.5	9.1	11.8
10.4	10.0	11.9	7.4	8.7	11.4

全員が関われる仕組みをつくることが、学校飼育の強みです。

地域が発信する矛盾した情報

排除すべき生命はいます。

学校飼育では、命を慈しむ体験ができます。





全員が関われる仕組みをつくることが、学校飼育の強みです。

平成20年告示解説で変更された文言

平成20年の改訂では、病気や死に直面したときの悲しみや恐ろしさが、児童の成長に必要な体験とされました。

生命の尊さを実感する体験として、飼育・栽培を捉えています。

小学校学習指導要領解説 生活編

第3章 第2節 (7)

- 飼育や栽培の過程では，新しい生命の誕生や突然の死や病気など、身をもって 生命の尊さを感じる出来事に直面することもある。
- 成長することのすばらしさや尊さ，死んだり枯れたり病気になったりしたときの悲しさやつらさ，恐ろしさは， 児童の成長に必要な体験である。
- 動植物との関わり方を真剣に振り返り，その生命を守っていた自分の存在に児童自らが気付く機会と捉える事が大切である。

文言の変化には、当時の子どもと社会をめぐる問題意識が反映されています。

教育的意味をもつ別れ

日々の世話を通して関係を築いた動物との、避けることのできない別れです。

大事な存在でなければ、伝わらないのです。

どんな“死”でも

良いのでしょうか？

教育的意義は、それまでの関係性に左右されます。

愛着は日々の世話から生まれる

掃除、給餌、観察を繰り返す中で、
「自分の世話がこの命を支えている」
という実感が生まれます。

「小屋の掃除をしました。おしっこやうんちがいっぱいありました。だけどぼくはシロちゃんが大好きです。

シロちゃんを大事にしたいから、小屋をきれいにするお仕事をしました。

ぼくはシロちゃんから、がんばる心と優しい心をプレゼントしてもらいました」。









愛着は、かわいさだけでなく、世話を引き受けた時間から育ちます。

繰り返し関わる時間

短い触れ合いだけでは、動物の立場に立って考えるところまで届きません。

息の長い活動が、責任感と共感性を育てます。

小学校学習指導要領解説 生活編

第3章 第2節 (7)

動物が生命をもって生きていることや動物と自分との関わり方に対する気付きがある。

頑張った自分，優しく接することができた自分自身にも気付いている。

このような児童の姿が生まれるためには，繰り返し動植物と関わる息の長い学習活動を設定することが大切である。

動植物に対する親しみの気持ちが生まれ，責任感が育ち，生命の尊さも感じることができる。

自分本位ではなく，動植物の立場に立って考えることができるようになる。

単発のイベントより、毎日の小さな気付きを重ねます。

飼育を教育にする支援体制

管理、繁殖、施設、休日の世話まで学校全体で決めます。

教員、保護者、地域、獣医師が役割を分担します。

小学校学習指導要領解説 生活編
第3章 第2節 (7)

動物の飼育に当たっては，管理や繁殖，施設や環境などについて配慮する必要がある。

専門的な知識をもった地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携して，よりよい体験を与える環境を整える必要がある。

休日や長期休業中の世話なども組織的に行い，児童や教師，保護者，地域の専門家などによる連携した取組が期待される。

地域の自然環境や生態系の破壊につながらないように，外来生物等の取扱いには十分配慮しなければならない。

担当教員一人の善意に頼る体制では、教育も動物福祉も続きません。

子どもに残したい実感

この子には、好きなことと苦手なことがある。

自分の世話が、この命を支えている。

別れは悲しい。

それでも一緒に過ごした時間は残る。

こんな気持ちをもってもらいたいです

知識だけでなく、関係を結んだ実感を残します。

「ずっと忘れない」と言える関係

作文には、動物の好み、遊んだ記憶、老いへの気遣い、死の悲しみが具体的に書かれています。

東京都獣医師会・教育委員会共催
学校動物飼育作文コンクール　平成21年度会長賞

モック大好き

大田区立赤松小学校２年　井上さん

わたしは、１年生のときにずっとモックのおせわをしていました。

モックは、にんじんがすきでとってもかわいいです。

わたしがだっこするとキューキューとなきます。

モックの大きらいなのは、ぬれることです。

風のつよい日やさむいときは、かごの中にテントをつけてあげました。

モックの色は、白と黒と茶色です。

もうおじいちゃんだからやさしくあそんであげました。

モックのお気に入りのところは、ジャングルジムです。

ジャングルジムの上には、のぼれないけど、めいろがすきです。

モックは、足がおそいです。

ちょっとだけ太っています。だけどうんどうは、とくいです。

さかだちとぶらさがるのが、とくいです。いやがってるようすは、ありません。

だっこすると、きもちよさそうに手にねっころがります。

くびに手でさわると、わらっているようにします。

なき声は、キューとミーとキーってなきます。

なき声は、とってもかわいいです。

でも、もうモックは、いません。二学きにしんでしまいました。それを聞いたら、むねがキューとしました。

天国で元気でいてくれたらいいなと思います。

ずっとモックのことは、わすれません。

別れの言葉に重みが生まれるのは、日々の関わりが具体的だったからです。

命を預かる責任への気付き

保谷第二小学校での親御さんと児童へのインタビュー

「真面目にやらないと死んじゃうじゃん」

子どもは世話を通して、自分の行動と動物の命がつながっていることに気付きます。

もっとふざけてやっているのかと思っていたが，真面目にやっていて驚いた

「だって真面目にやらないと死んじゃうじゃん」



責任感は注意されて身に付くのではなく、世話の意味を理解して育ちます。

02

動物種と飼育環境

教育目的だけでなく、動物福祉、安全、終生飼養まで含めて設計します。



動物を選ぶ4つの条件

子どもが毎日観察できる
人との関係を築きやすい
学校が安全に世話できる
最後まで責任を持って飼える



モルモットをお譲りしています

継続的にモルモットを飼育繁殖させている都立動物園３園では、学校での飼育を希望する小学校・幼稚園・保育園等にその一部を無償でお譲りしています。飼育環境を整えたうえで、責任を持って終生飼育していただくことが条件となります。詳しくは下記までお問い合わせください。

- 井の頭自然文化園　飼育展示係　モルモット担当　TEL：0422-46-1100　（月曜休園）
- 上野動物園　子ども動物園係　モルモット担当　TEL：03-3828-5171　（月曜休園）
- 多摩動物公園　教育普及係　モルモット担当　TEL：042-591-1611　（水曜休園）



導入前に、地域の獣医師と飼育条件を確認します。

少数の個体を丁寧に飼う

動物の数を増やすほど教育効果が高まるわけではありません。

一頭一羽の個性を見分けられる数に絞ります。

動物種の選択

必要最低限の動物種で良い

世話の楽な、感情の交換できる動物種

小型哺乳類と愛玩鳥

- チャボ夫婦
- ウサギ
- モルモット

「必要最小限」が、観察と愛着を深めます。

動物の気持ちを想像する

「いま、この子はどう感じているかな」と問い、姿勢、耳、呼吸、動きを一緒に見ます。



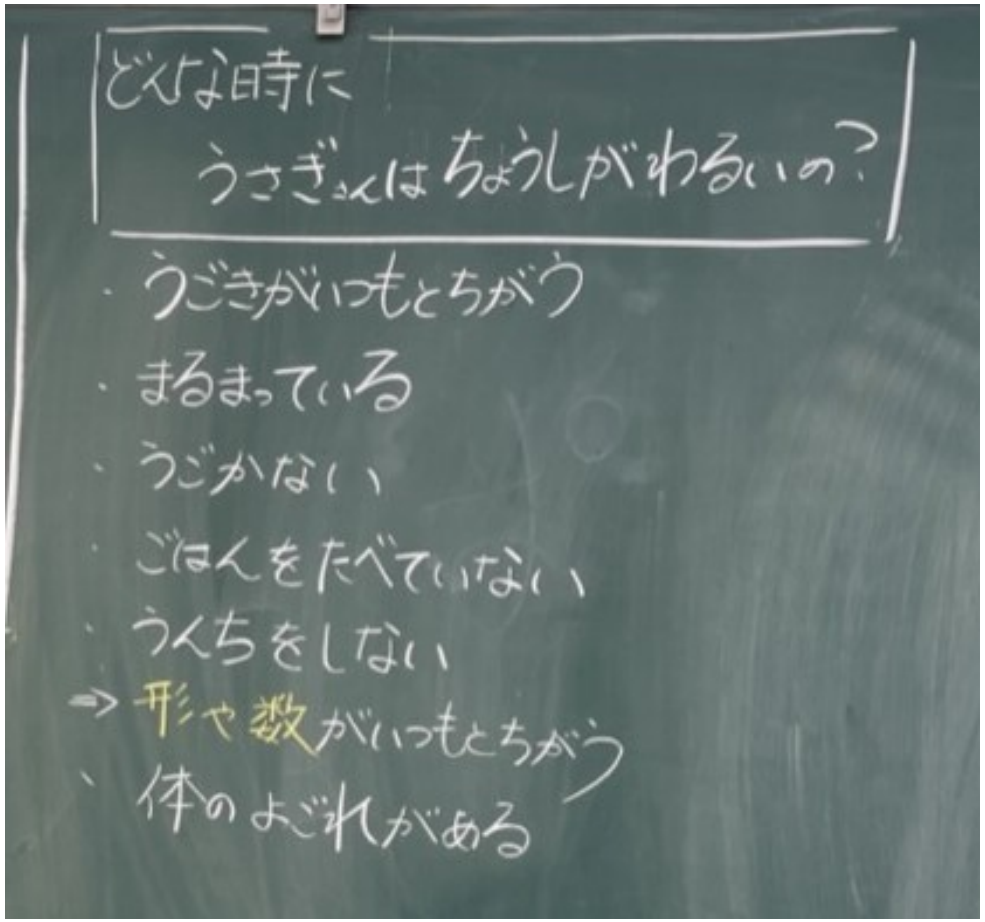
共感性は、相手の反応を読み取るところから始まります。

継続した関わりが「気付き」につながる

毎日見ているからこそ、「いつもと違う」に気付けます。

この気付きが、健康管理と動物への理解の両方につながります。

他者を「心配する」体験です。



観察は、かわいがることと健康を守ることを結び付けます。

学校での飼育に不向きな動物

世話の負担が大きい動物

法令・生態系・安全面の問題がある動物

特定の飼い主との強い関係を必要とする動物

ヤギ・ブタ・水鳥など

野生動物・外来動物

イヌ・ネコ（寂しさで不安定になる）





学校の体制で終生飼養できない動物は導入しません。

室内飼育という選択肢

室内や昇降口など、人の動線に近い場所では、子どもが日常的に観察できます。



子どもに近い場所ほど、気持ちが近くなります。

昇降口での飼育例

登下校のたびに動物の様子が目に入ります。

担当学年以外の子どもも、変化に気付きやすくなります。



日常の動線に置くことで、観察が特別な活動ではなくなります。

教室・廊下での飼育例





近くに居ることで、動物への気遣いが生まれます。

動物が身近になる効果

近くにいると、食べ方、排泄、休み方、反応の違いに自然と気付きます。

小さな変化が会話のきっかけになります。



身近さを、観察と言葉の学習につなげます。

世話を次の学年へ引き継ぐ

上級生が下級生へ、世話の方法と動物の個性を伝えます。

教える過程で、自分たちの経験を整理できます。



引継ぎは、飼育の継続性と子どもの学びを支えます。

03

記録と健康管理

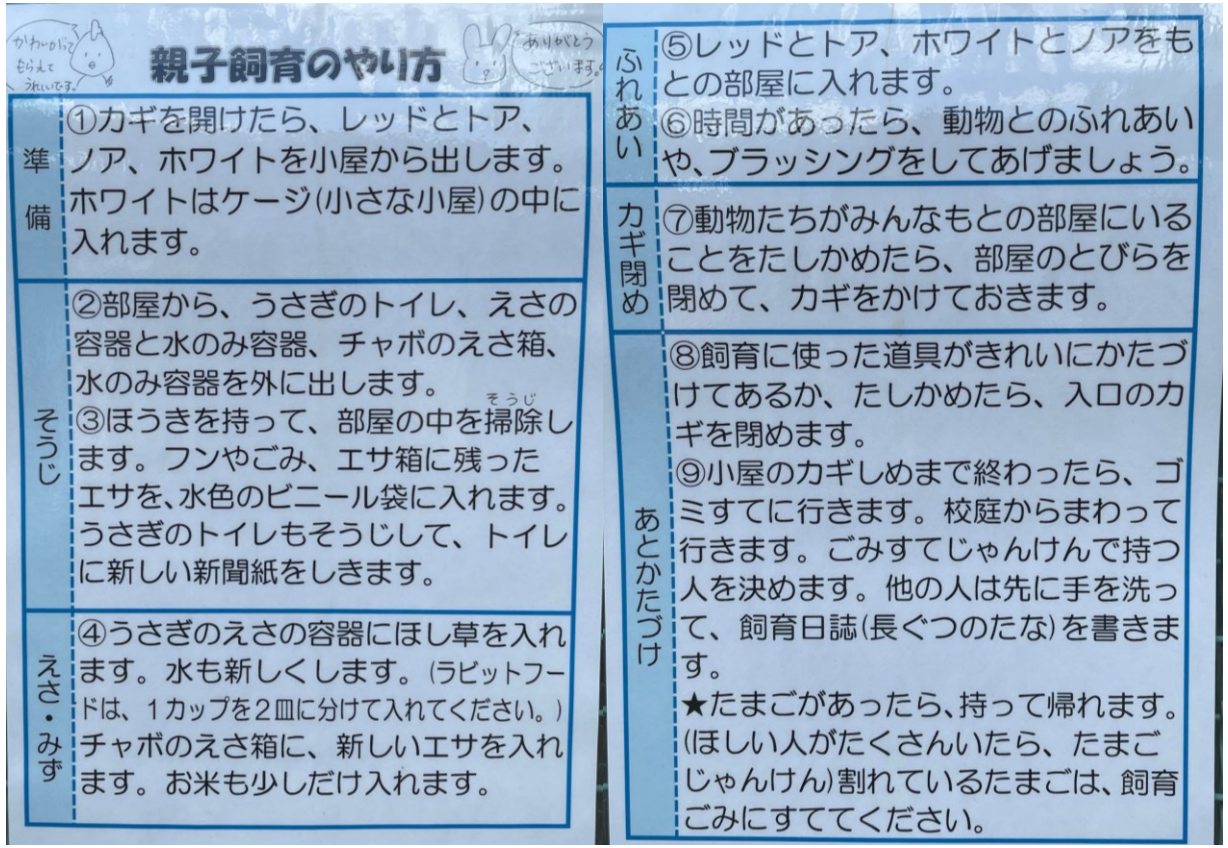
子どもの観察を記録に残し、教員と獣医師の判断につなげます。



飼育を支える記録と道具

飼育日誌、個体プロフィール、体重計を用意します。

世話の仕方なども、誰でも分かる場所に掲示します。



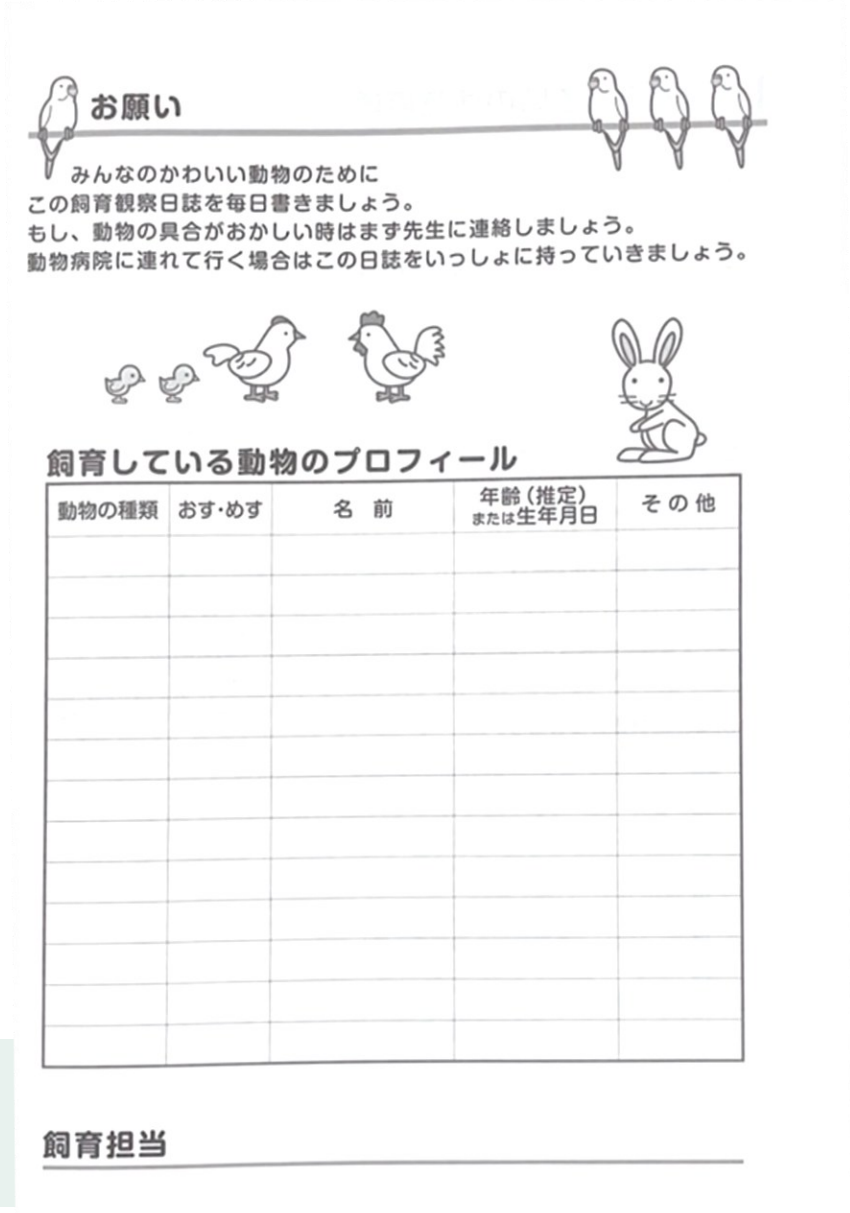
親子飼育のやり方

準備	①カギを開けたら、レッドとトア、ノア、ホワイトを小屋から出します。ホワイトはケージ(小さな小屋)の中に入れます。
そうじ	②部屋から、うさぎのトイレ、えさの容器と水のみ容器、チャボのえさ箱、水のみ容器を外に出します。 ③ほうきを持って、部屋の中を掃除(そうじ)します。フンやごみ、エサ箱に残ったエサを、水色のビニール袋に入れます。うさぎのトイレもそうじして、トイレに新しい新聞紙をしきます。
えさ・みず	④うさぎのえさの容器にほし草を入れます。水も新しくします。(ラビットフードは、1カップを2皿に分けて入れてください。)チャボのえさ箱に、新しいエサを入れます。お米も少しだけ入れます。
ふれあい	⑤レッドとトア、ホワイトとノアをもとの部屋に入れます。 ⑥時間があったら、動物とのふれあいや、ブラッシングをしてあげましょう。
カギ閉め	⑦動物たちがみんなもとの部屋にいることをたしかめたら、部屋のとびらを閉めて、カギをかけておきます。
あとかたづけ	⑧飼育に使った道具がきれいにかたづけてあるか、たしかめたら、入口のカギを閉めます。 ⑨小屋のカギしめまで終わったら、ゴミすてに行きます。校庭からまわって行きます。ごみすてじゃんけんで持つ人を決めます。他の人は先に手を洗って、飼育日誌(長ぐつのたな)を書きます。 ★たまごがあったら、持って帰れます。(ほしい人がたくさんいたら、たまごじゃんけん)割れているたまごは、飼育ごみにすててください。

記録があれば、担当者が替わっても動物の情報を引き継げます。

個体プロフィール

年齢、性別、既往歴、性格、好きな食べ物、苦手なことを一枚にまとめます。



お願い

みんなのかわいい動物のために
この飼育観察日誌を毎日書きましょう。
もし、動物の具合がおかしい時はまず先生に連絡しましょう。
動物病院に連れて行く場合はこの日誌をいっしょに持っていきましょう。

飼育している動物のプロフィール

動物の種類	おす・めす	名　前	年齢（推定）または生年月日	その他

飼育担当

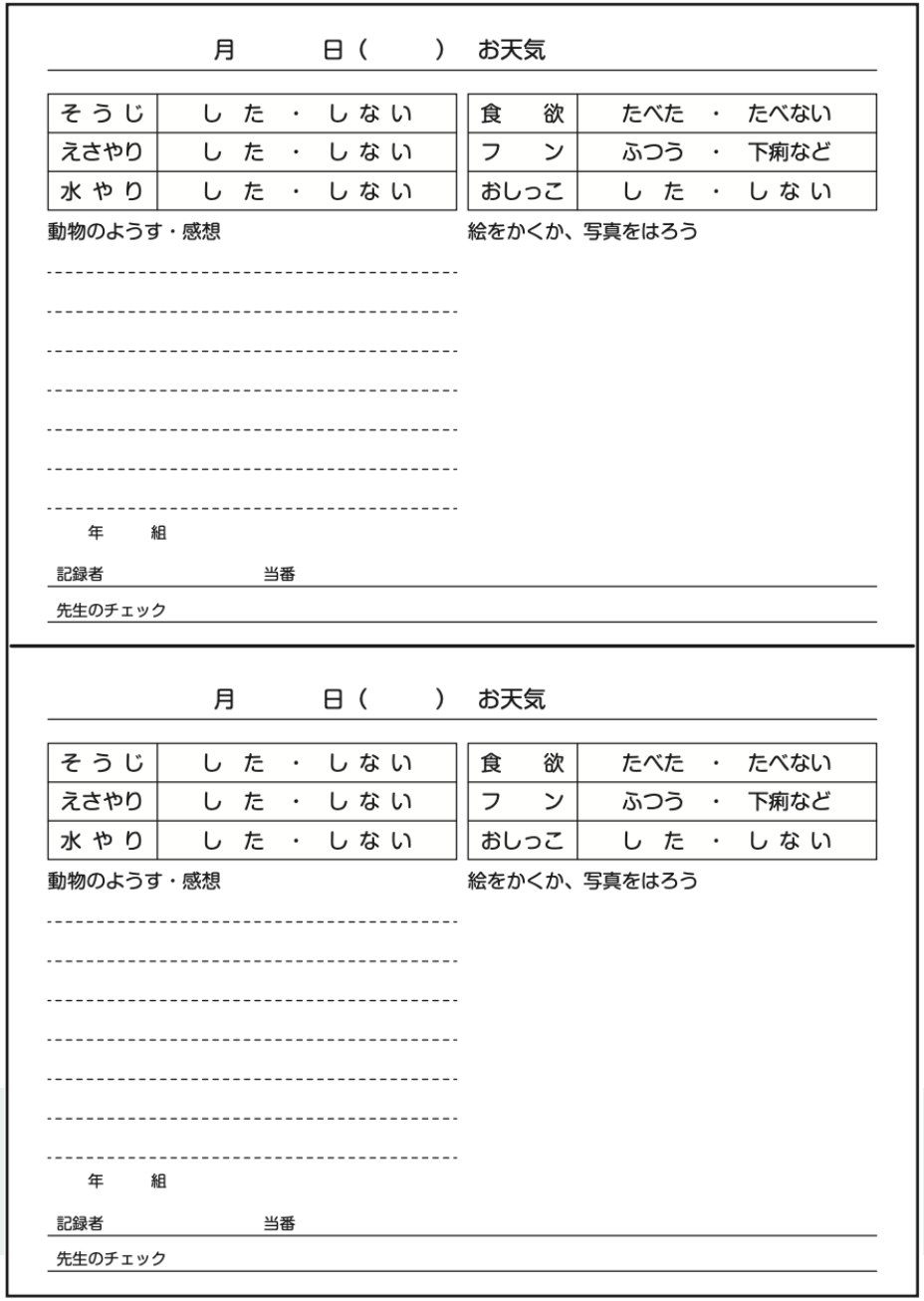
「この種類の動物」ではなく、「この子」を理解する資料です。

CHAPTER 03

毎日の観察日誌

食欲、飲水、排泄、行動、室温、担当者を記録します。

文章を長く書くより、毎日同じ項目を確認します。



月　　日（　　）　お天気

そうじ	した・しない	食欲	たべた・たべない
えさやり	した・しない	フン	ふつう・下痢など
水やり	した・しない	おしっこ	した・しない

動物のようす・感想

絵をかくか、写真をはろう

年　組

記録者　　当番

先生のチェック

月　　日（　　）　お天気

そうじ	した・しない	食欲	たべた・たべない
えさやり	した・しない	フン	ふつう・下痢など
水やり	した・しない	おしっこ	した・しない

動物のようす・感想

絵をかくか、写真をはろう

年　組

記録者　　当番

先生のチェック

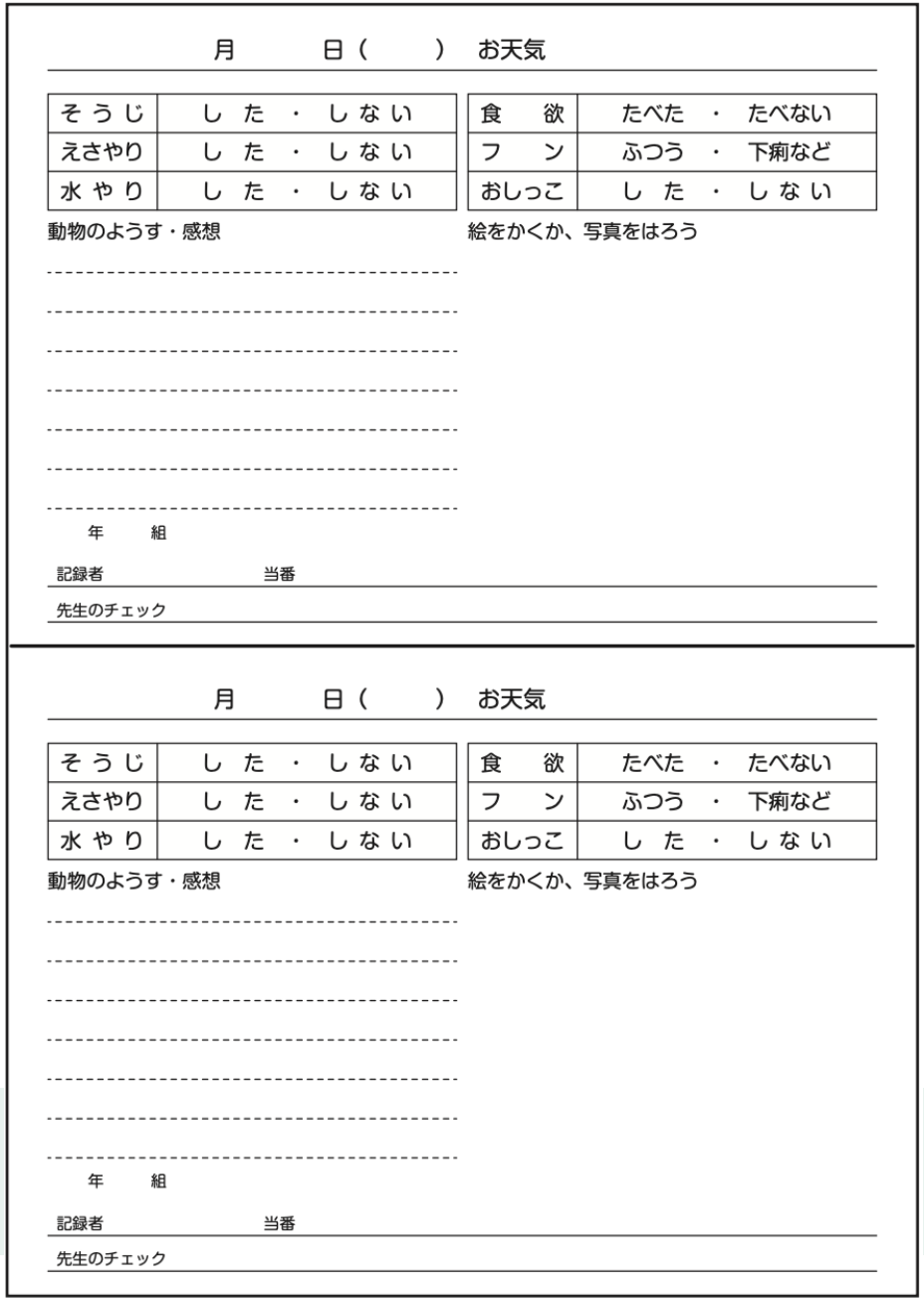
記録の目的は、異常を早く見つけることです。

CHAPTER 03

記録を健康管理につなげる

「元気がない」だけでなく、いつから、何が、どの程度変わったかを残します。

獣医師へ相談するときの重要な情報になります。



月　　日（　　）　お天気

そうじ	した・しない	食欲	たべた・たべない
えさやり	した・しない	フン	ふつう・下痢など
水やり	した・しない	おしっこ	した・しない

動物のようす・感想

絵をかくか、写真をはろう

年　　組

記録者　　当番

先生のチェック

月　　日（　　）　お天気

そうじ	した・しない	食欲	たべた・たべない
えさやり	した・しない	フン	ふつう・下痢など
水やり	した・しない	おしっこ	した・しない

動物のようす・感想

絵をかくか、写真をはろう

年　　組

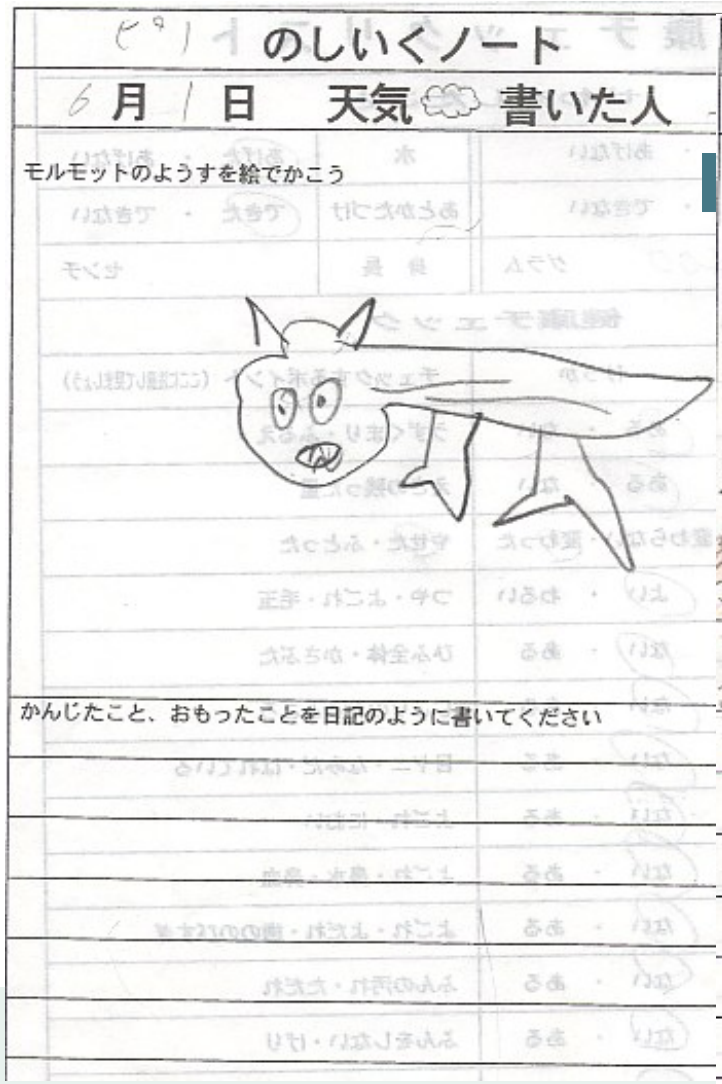
記録者　　当番

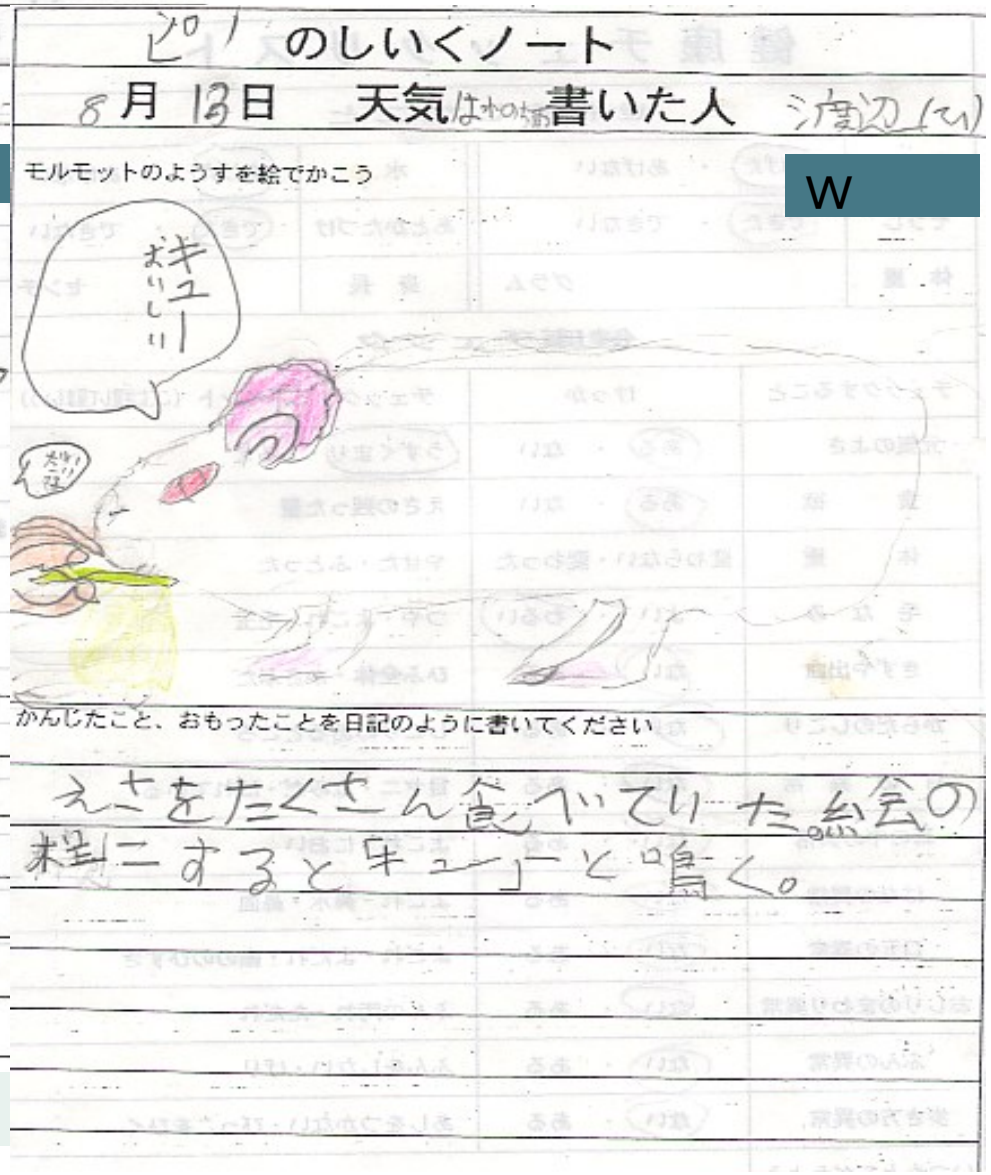
先生のチェック

子どもの気付きを、大人の適切な判断につなげます。

子どもの変化

対象が可愛くなると、
絵も変わってくることがあります。





体重は早期発見の手がかり

定期的に同じ条件で測定します。

食事量や行動の記録と合わせると、小さな変化を捉えやすくなります。

体重計

キッチンスケールが最適です。モルモットを乗せるトレーがあると便利です。最高 1.5 ～ 2kgまで測れるものを選びましょう。



数字を目的にせず、動物の状態を考える材料にします。

学校でのモルモットの飼い方　東京都動物園協会

https://www.tokyo-zoo.net/education/school-resources/pdf/moru.pdf

獣医師との連携

心配事があれば、日頃から獣医師に相談できる環境を作ります。

異常時だけの関係にしません。



継続的な連携が、病気の予防と早期対応を支えます。

04

獣医師の語りかけ

正解を急いで渡さず、子どもの観察を次の問いへつなげます。



獣医師が担う二つの役割

安全と健康に関わる判断は、専門家として明確に伝えます。

観察で分かることは、子どもと一緒に考えます。



教える場面と、問い返す場面を使い分けます。

観察につながる問い

「何を見て、そう思ったの？」
「いつもとどこが違う？」
「次は何を見てみようか？」

疑問や好奇心を持つこと自体が大事

調べればわかること、考えて欲しいこと、観察すればわかることは問い返している

例えば、食事量はどれぐらいがいいの、という問に、グラム数を伝えるのでは無く、動物を観察できるような答えを考える

答えを当てさせるのではなく、気付いたことを言葉にしてもらいます。

触れる前に伝えること

手の位置、支え方、動物が嫌がったときの離し方を実演します。

触らない子どもの選択も尊重します。





安全な体験には、動物と子どもの両方を守る準備が必要です。

05

教員への助言と別れの支援

飼育を学校全体で支え、病気・事故・死の場面では子どもに責任を負わせません。

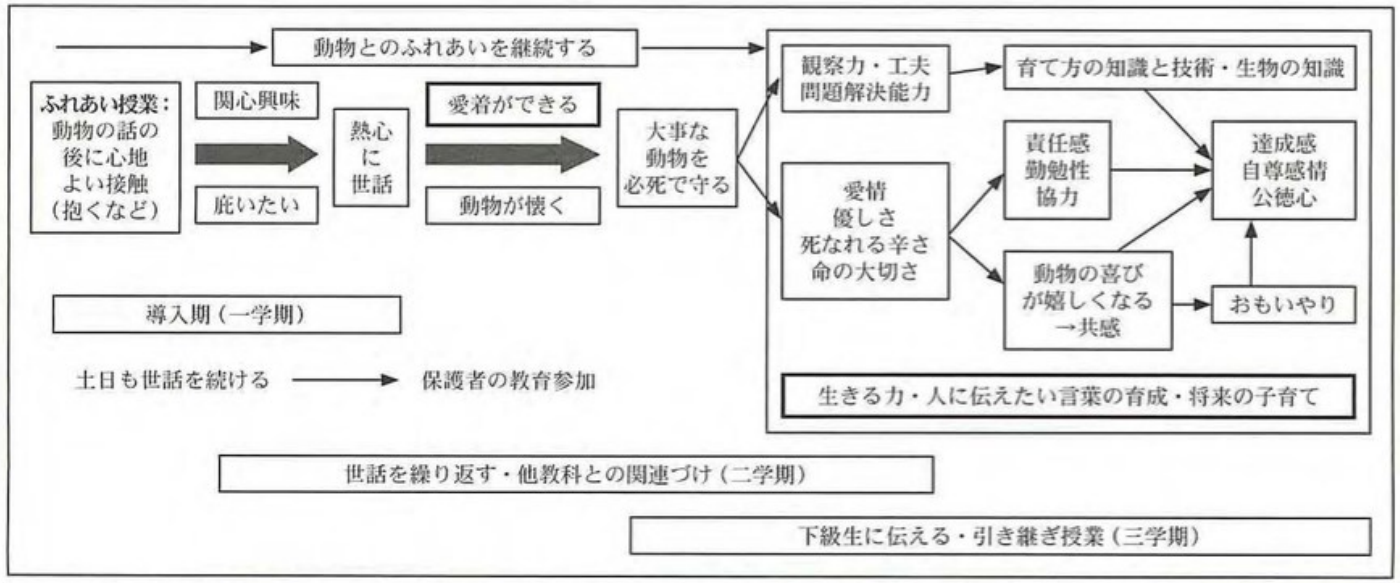


学校全体の年間計画

担当学年、休日対応、診療、緊急時、引継ぎ、終生飼養を導入前に決めます。

獣医師の訪問時期も年間計画に組み込みます。

飼料費・獣医師会への委託費の予算化も必要です。



1学期の飼育導入のふれあい授業後の日常の世話と動物とのふれあいの継続が、児童に動物への「愛着」を培う。その後の2～3学期を通じ、児童には様々な飼育活動の影響が顕れる。これは将来の子育てまでつながる可能性がある。

図3　飼育活動が児童に与える影響の流れ

中川 美穂子，無藤 隆,.2015

飼育を担当者の善意ではなく、学校の教育活動として位置付けます。

安心してかわいがれる環境

清潔で、暑さ寒さを避けられ、動物が休めること。

子どもが日常的に観察でき、安全に触れられること。



適切な飼育の結果、教育的な関わりが成立します。

CHAPTER 05

防げた死と避けられない死

暑さ、寒さ、飢え、給水不足などは大人が防ぎます。

寿命や治療しても治らない病気には、分かっている
事実を年齢に合う言葉で伝えます。





原因を曖昧にせず、子どもに責任を負わせません。

“死“と向き合う時を丁寧に支える

様々な死があります。
獣医師として、原因を究明し、わかりやすく伝えます。
不慮の死が起きたとしても、誰かを責めるのではなく、
共に悲しめるとよいかと思います。



後悔をなるべく小さく、死と向き合えるように支えてください。

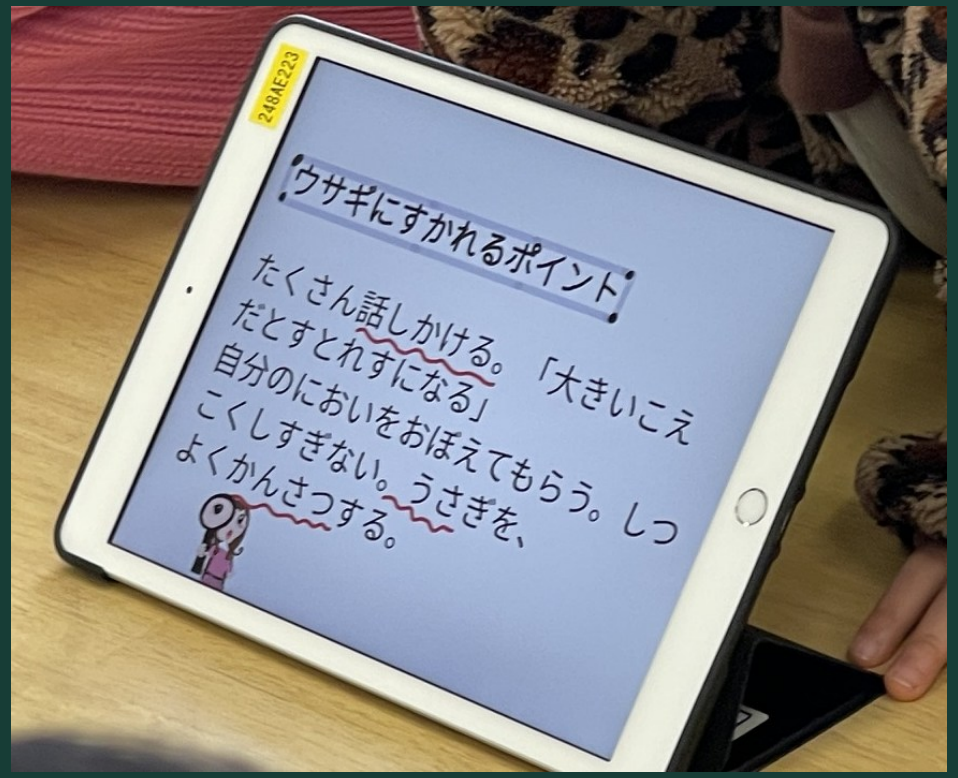
一緒に過ごした時間を、学びとして残す

動物福祉を守る日常の世話

子どもの気付きを支える大人の言葉

学校と獣医師の継続した連携

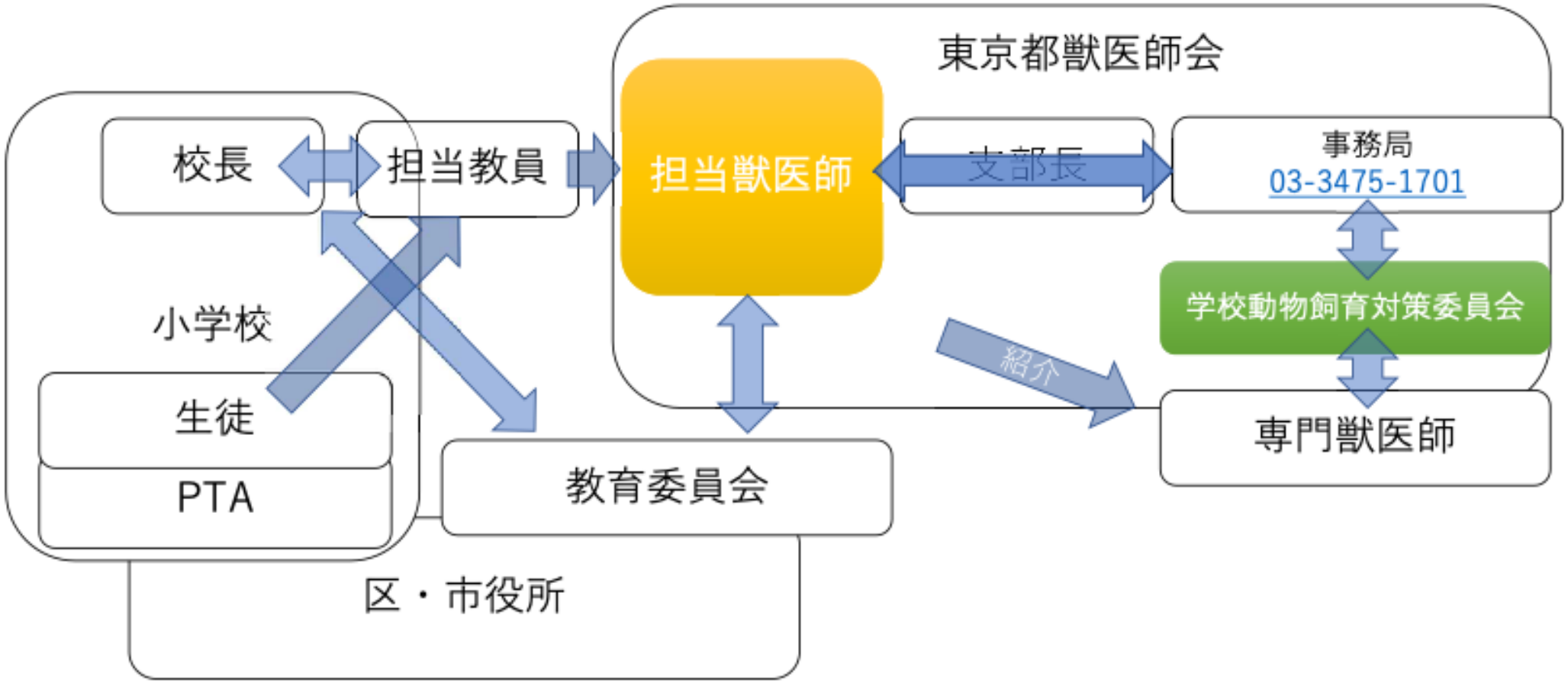
子どもが安心して命と向き合える環境を、
学校と獣医師が一緒につくります。



子どもたちには「学校にいる生き物」、ではなくて
「一緒に生活すること」を感じて欲しい

提案

チャボの診療
問題発生時の連携チャート（案）














4 19 97






船津川小学校





高槻市立川西小学校





